

1. 知事の政治姿勢について

(3)-② 米国大学の誘致



次に、県内の新しい人材育成機関誘致に対するお考えをお聞きします。

この度、米国のウイスコンシン州立大学は北九州市そしてアジア環境技術推進機構と協力して、先月 16 日に日本キャンパスの開設の可能性を調査するため、ウイスコンシン大学の学長ら一行が北九州市を訪れました。

同大学は、ホテル・レストラン・旅行業界等への人材輩出に実績があり、この程、日本初進出の有力候補地である北九州市門司区を視察しました。開校 1 年目に 200 人、五年目には 1,500 人の学生を集めるとの計画が立案されています。今後は候補地を絞って 2022 年中に実施計画をまとめ、2024 年秋の専門学校の開校を目指すと言っていました。同大学の日本キャンパスが街づくりの核の一つになれば地元経済界も行政と連携し、地域発展と高齢化対策そして景気回復にも有効なプロジェクトになると期待しています。また、人口増や観光需要の拡大なども期待出来るので新たな街づくりのため、ウイスコンシン大学の日本キャンパスの誘致をオール北九州市で実現に向け、支援しています。そこで知事に伺います。

ウイスコンシン大学による専門学校誘致に対して今後、福岡県としてのかかわり方や支援策について知事の見解をお聞かせください。

【服部知事の答弁】

北九州市門司区への専門学校誘致について

北九州市門司区における専門学校の設置に向けた調査のため、本年 11 月にウイスコンシン大学の関係者が現地を訪問したことは、報道で承知していました。

また、高齢化が進む地域において、この大学や専門学校の誘致が実現すれば、地域の活性化につながるものと、地元の方々は大きな期待を寄せていると思います。

我々としても関心を持って、北九州市に専門学校の計画についてお聞きした

ところ、現在、大学等から具体的な内容は示されていないとのことであります。

本県としては、専門学校を設置者からの相談があれば適切に対応するとともに、今後の動きについても情報を収集してまいります。